

令和4年度  
学校関係者評価報告書  
(第1回)

令和4年5月25日(水)

学校法人 九州総合学院  
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

## 令和4年度 第1回「学校関係者評価委員会」報告について

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校では、昭和62年4月1日から、今年で36周年を迎えております。途中、平成26年に学校法人九州総合学院に統合され、KBCCという略称、鹿児島情報ビジネス公務員専門学校として、歩みを進めているところでございます。

卒業生が総数4,904名で、後100名ほどで5,000名になります。卒業生の皆さんはいろんな分野で一生懸命活躍しているという報告もいただいておりますし、また卒業生も年々送りだしながら、100%全員就職を決めて、気持ちを込めて社会に送り出している状況です。

九州総合学院には4校あり、五島も含め長崎に2校、そして熊本、鹿児島にあります。

本校は、常勤が24名、非常勤は増減がありますが31名、計55名です。

本日、第1回「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関連する企業・医療機関・卒業生及び保護者の方々に本校の教育活動や学校運営に関しまして貴重なご意見や提言等を賜り、今後の学校運営や評価の在り方について、改善を図るため努力してまいります。

現在、情報システム科28名、システム工学科（eスポーツ&IT）19名、総合ビジネス科30名、医療秘書科33名、公務員科76名、計186名と外国人180名が学んでおります。総在籍者366名の状況であります。

職業実践専門課程については、平成30年に医療秘書科と総合ビジネス科が、令和3年に、2年生課程の「情報システム科」が、文部科学省の認可を受けました。

皆様のご尽力により、専門分野に関する企業・団体等との連携体制の確保などの諸要件を満たすことができこのような評価を得ることができました。誠に有難うございました。

本日は、以上のことを踏まえて、ご意見ご助言を賜り、今後に役立てて参りますのでよろしくお願いいたします。

令和4年5月25日

学校法人 九州総合学院

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

校長 小松 信明

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「令和元年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等8名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）および教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

(順不同・敬称略)

評価委員	会社（企業）名	役職名	任期	備考
久永 忠範	一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	会長	R5. 3. 31	株式会社 フォーエバー 代表取締役
新 政行	株式会社 スマートエンジニアリング	常務取締役	R5. 3. 31	
小森 昌章	特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会	理事	R5. 3. 31	株式会社 小森昌章 建築設計事務所 代表取締役
竹下 とみお	協業組合ドゥ・アート	代表理事	R5. 3. 31	
押井 啓一	南九州税理士会	副会長	R5. 3. 31	税理士法人 押井会計代表社員 (当日・欠席)
眞邊 隆洋	合同会社 エムコミュニケーション	代表	R5. 3. 31	
萬 英治	鹿児島医療経営研究会 (KM M)	顧問	R5. 3. 31	一般社団法人鹿児島 県医療法人協会 協会立看護専門学校 /事務長
馬場 俊孝	医療法人 上原クリニック	人事部長	R5. 3. 31	
前平 秀康	株式会社 土佐屋	取締役 総務部長	R5. 3. 31	卒業生 (当日・欠席)
柳川 勝吾			R5. 3. 31	保護者 (当日・欠席)

### 3. 委員会次第（概 要）

#### （1）開会

#### （2）学校長挨拶

就任の挨拶と本委員会の目的について説明を行った。

#### （3）委員長選任

本校，山下 貴光委員を委員長に選出し，議長とした。

#### （4）令和4年度 学校自己点検評価報告

校長より，評価の変更の項目および，今後の取り組みについての報告を行った。

（詳細は後記のとおり）

#### （5）討議・意見交換

各評価委員から，報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

#### （6）本部長挨拶

#### （7）閉会

### 4. 評価の変更の項目および，今後の取り組みについての報告（校長）

#### ・ 1 建学の精神・教育理念，教育目標

すべて適切である4の評価である。日ごろ，この学校をどうすればよいかを考え，教育目標を新たに設定しながら運営している。

先生方には，前例主義でやっていくのではなく，新たな問題意識を持ち運営していくよう問いかけている。

#### ・ 2 教育内容

人材の育て方，あらたな分野へどのように取り組んでいくのかを計画的に，カリキュラムに反映していく検討をしている。

#### ・ 3 教育の実施制度 - 5（就職支援を行うための指定された場所があるか）

（昨年度 3 → 今年度 4）

特別に就職支援室を準備してはいないが，現在，個別面談や面接練習の場として校長室を開放。また，202号教室を多目的教室として使用できるようにしたため。

#### ・ 4 教育目標の達成度と教育効果

各学科の特色をだし，資格も100%合格に近づけるよう，補講などを実施している。

#### ・ 5 学生支援 - 18（卒業生の会（同窓会等）はあるか。）

（昨年度 2 → 今年度 3）

卒業生名簿は，存在する。組織として，会長を末永はじめ（株式会社シェア）様に内諾を得ている。副会長に木原毅斗，書記に南迫絵理，会計に池田英理とした組織づくりを行った。

#### ・ 5 学生支援 - 20（卒業生への講習・研修を行っているか）

（昨年度 3 → 今年度 3）

卒業生のいる企業からの研修依頼については実施しているが，個別に対しては対応していない。

#### ・ 5 学生支援 - 23（保護者の会（講演会等）はあるか。）

（昨年度 2 → 今年度 2）

専門学校には合わないのではないか。この項目については，評価内容を変更するか，削除ことも考えて

おり、アドバイスを頂ければと思う。

- ・ 6 社会的活動 - 5 (社会的活動 (地域活動, 地域貢献, ボランティア活動等) を評価の上, 単位認定しているか)

(昨年度 2 → 今年度 2)

おはら祭には参加しているが, ボランティアの実施や単位への置き換えは専門学校では難しいため, ご助言いただきたい。

- ・ 7 管理・運営 (各校) - 10 (物品 (消耗品・貯蔵品等) 等の在庫管理を実施しているか)

(昨年度 3 → 今年度 4)

消耗品に関して, 管理簿をつけ, 管理補充を行っている。

## 5. 討議・意見交換について

各評価委員から, 様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

### ■久永委員

評価が4になっても次のステップを目指す。4がどのように変わったか明確にしていく。5の学生支援にある18の卒業生の会が今から発足することだが, ホームページなどで情報発信が必要かと思う。23の保護者の会という項目を削除する件だが, どういう立場で保護者の会を行うのかを明確にしたほうが良い。今, どのような状況で保護者とのやりとりを行っているのかを教えてもらいたい。それを元に保護者の会をどうするか検討したほうが良い。

(校長)

保護者には, 年2回, 学校便りと言うものを, 各学科の特色, 学校行事, 校長の教育方針などを記載し, 郵送している。また, ホームページで学校の実態を公開している。

担任は, 学生とは二者面談を, また, その内容も踏まえて, 保護者も交えた三者面談も行い, 保護者の要望なども聞いている。また, LINEなどのSNSを使い, 夏休み中なども連携をとれるようにしている。

(久永委員)

保護者の会を無理に作るのではなく, 三者面談等を行っているのであれば, 保護者とのコミュニケーションが取れているかという評価に変えてもよいのではないか。

(萬委員)

入学式の時に保護者もいらっしゃるため, その前に保護者説明会を行っている。保護者の会が必要なのではなく, 保護者との連携がとれているかが重要かと思う。

(谷川)

本校も3月中旬に保護者説明会を入学する学生全員に案内をして実施している。9割ほど参加している。その際, 学校の事, 奨学生, 各クラスに分かれ, 学科の特色など話をしている。

(本部長)

保護者会は, 保護者との情報共有, コンセンサスコミュニケーションをとるという部分で大事なことで, 高校までは保護者が近場にいらっしゃることが多いので集まりやすい。それが, 高等教育になると集まるのが難しくなる。三者面談なら, 単独なので調整すれば可能である。

また、保護者会となるとPTA会費を集め、決算報告し、そのお金を誰かが管理して、などかなり手間がかかってしまう。情報共有とコミュニケーションを保護者と取るという目的ならば、保護者会は必要ないと思われる。保護者もお忙しいため、学生の実情が解らない方もいる。他学校様では、保護者用サイトを準備し、情報提供を行っている。そこでチャットなどでインタラクティブに質問や回答ができるツールを使っているところもある。このようにWebサイトを活用すれば保護者との連携体制も構築できるので、サイトを活用できればと考えている。さらに、卒業生用のサイトもあれば、卒業生とも情報共有ができる。

#### ■新委員

7の管理・運営（各校）内にある防災・防犯に関する項目について、学校関連でどのように備蓄をしているのか知りたい。特に水や簡易トイレなどの備蓄があるのか、また評価としてあるのかを聞きたい。

（校長）

防災訓練は定期的に行っているが、備蓄等は現段階ではない。

（新委員）

有事の際に保護者が安心できるような避難所としての備蓄があっても問題ないのではないかと。

（校長）

今後、検討する。

（本部長）

東日本大震災の時にいた学校法人が仙台にあり、2日、3日、帰ることができず、職員が泊まり込んだ。その時の反省で自動販売機が防災対応だと緊急時に飲めるため、その確認し、対応していく。

（校長）

簡易トイレなども検討していく。

#### ■小森委員

通常の評価レベルではほぼ評価4になっており、残されているところはわずかになっている。ただ、4を確実に続けていくエネルギーはかなり必要かと思う。また、評価に項目がある以上は、2や3の評価を4にしていかなければならない。ボランティアの項目についても直接的なボランティアだけでなく、地域と一体となって何かをすることにより学生の思い出作りになりつつ、評価もあげられるのではないかと？大学などでは、このような取り組みで単位認定しているところもある。そのような学校の資料も参考にすれば別の見方も出てくるのではないかとと思われる。

（校長）

地域活動という観点では、目を向けなければいけないと思っているため、探してみたいと思っている。また、参考になる意見があれば教えていただければと思う。ただ、単位にするのは難しいが、地域に奉仕していく重要性を感じる学生を育てていきたいため、地域活動にクローズアップして、実施していく方向性でいきたい。

（本部長）

他の専門学校では、一般的にボランティア活動を奨励・支援しているかという項目が多い。専門学校は単位認定をしているとはうたっていない。なぜかという、あくまでボランティア活動を高校では総合学習として授業のかわりにし、単位認定している。それについては文科省の指針が平成10年にでて、制度化されている。高等学校及び専修学校の高等課程を持っているところ、いわゆる高校生に対して単位認定できますよという指針である。それ以降、令和元年に大学専修学校にでた指針とし

ては、災害等のボランティア活動をし易くするよう努力する事と大きな災害が出たときに発信された。こういうことで、授業があるから、学校があるからボランティアにいけないということになるだけしないで欲しいという指針も出ている。おはら祭で社会活動に出ているという件も授業の一環で出席扱いにしているので、校長判断でボランティア活動も単位認定までいかなくても分野にかかわるインターンシップだからという判断で出席扱いにできる。このような形で学校側も推進していけばいいのではと思っている。

#### ■竹下委員

卒業生の会が3評価でとまっているが、この項目は3で止めていいと思っている。卒業生の会は学校がするのではなく、卒業生が主体となってやるのが本来の姿だと思っている。なので、情報提供はしても、学校が中心となってやらなくてもよいと思っている。それと保護者の会だが、抹消してもよいと思っている。18歳以上が成人となるため、成人した学生が通う学校に保護者の会は必要ないと思う。ボランティア活動についても、その意識を育てていくぐらいのレベルで実施できればよいと思う。

(校長)

卒業生の会については、範囲が広くて、組織を束ねる資料は学校で準備できるが、卒業生が中心となりやっていけば、評価も4になるかと思う。

#### ■眞邊委員

3 教育の実施体制の中に6の学内全面禁煙および喫煙にかかる社会生活上のルールとマナーの項目があるが、この項目が4になっている。学校周辺を見ると、周辺で喫煙している学生がいると思う。喫煙場所なので問題ないかと思われるが、保護者が見て、いい感じには見えないのではないかと感じた。例えば、全面的に周辺を禁煙として張り紙などをし、指導したほうが良いのではと思った。

6 社会的活動のボランティアの部分だが、例えば、学校のいらなくなった上履きや制服などを回収し、リユースしている業者がある。その業者が、昨年桜島の廃校を使って、小学生が協力し、集めたものをきれいにし再度使えるようにする活動をはじめた。ただ、集まる上履きの数は多く、それを洗うのに子供達だけでは手が回らず、周囲に声掛けを行っている。そのような場に、生徒と一緒にいってもらい、上履きを洗う手伝いだけでなく、実際にその活動を撮影、動画にし、発信することがボランティア活動になるのではと思う。それ以外にもボランティア活動を行っているところがあるので、そのような場に学校として出向き、勉強の一環として世の中にその活動を発信していけば、ウィンウィンの関係ではと思った。そのような活動が、小学生も来たお兄さん、お姉さんがどこから来たかが気になり、記憶に残るかと思う。

(校長)

喫煙については、やめさせるのは難しい。外の喫煙スペースで吸うことは公的に問題ない。隣や公園で喫煙している学生については、見苦しいと思っはいるが、やめさせる手段がない。マナーの問題ではあるので、指導している。ボランティアについては、検討させてほしい。

(本部長)

敷地内は、完全禁煙と定められている。よその敷地に灰皿があり、そこが喫煙場所となっている。その場は公共の場所のため、喫煙している。すりガラスなどが設置してあり中が見えなければいいが、マナー指導を徹底するしかない。

## ■萬委員

保護者の会やボランティアなど要件も出尽くし、特に問題ないように思う。個人的に気になったのは、今の学生はメンタル、耐久性が弱い。すでに項目にも入っているが、学生支援の中でメンタルの支援は、外部のカウンセラーがおこなっているということか？教職員へのサポートはあるのか？

(校長)

メンタルは、各学級担任が一番苦労している。手探りしながら、校長も入りながら、保護者とも話をしている。だが、すぐには良くならない。メンタルの面は、時間をかけ、気長にやっていきたい。

(本部長)

知っている学校法人では、定期的に教員向けの研修や講演会を行っているが、ありきたりな事しかしていない。

## ■馬場委員

5 学生支援のキャリアサポートの有識者やメンタルヘルスの担当員が在籍していることが評価対象となっているが、活動している、使われていることを評価したほうがよいのではないか。特にメンタルについては微妙な問題のため、こちらから行くように指導するのも難しいと思うが、使われてなければ意味がない。現段階で、実際に活用されているかを教えていただきたい。

(校長)

活用されている。相談室の先生からの助言も的確である。打ち明けることにより軽くなったという声もある。

(馬場委員)

もう一つ、24番の企業の会（就職後援会）はあるかと書いてあるが、必要なのか意味が解らない。単科の学校ならよいが、この会がどのような目的で作られるものかわからない。評価もずっと3のため、必要のない項目、または表現をかえる項目かと思う。

(校長)

企業実習、インターンシップなど、企業からの協力は頂いているが、会は必要ないかもしれない。

## ■前平委員

保護者とのやり取りが必要となるのはイレギュラーな時だと思うので、保護者の会は必要ないと思う。

社会貢献や地域貢献についても、意見にあった、備蓄などを有事のときに開放するなど、出来ることをやっていたらいいのではと思う。そのことが、何か有事の時に頼りになる学校となる。

(校長)

存在感を社会に打って出るという一面があると地域の方から頼りにされる場となる。具体的なものはまた検討していきたい。

討議・意見交換終了。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべく検討することを伝え、閉会した。

—以 上—

記録：木原